



山武農業事務所 改良普及課
TEL: 0475-54-0226
FAX: 0475-52-7914

山武地域の生育状況

7月は平年より高い気温で推移しました。6月中旬までに幼穂形成期を迎えた品種の出穂期は平年並みに迎えましたが、6月下旬に幼穂形成期を迎えた品種は、高温の影響もあり、幼穂形成期から出穂期までの期間が短くなりました。現在、5月中旬に移植された「コシヒカリ」「粒すけ」などは出穂期を迎えています。

いもち病、紋枯れ病などの発生は少ないですが、発生を確認したほ場では、農薬使用基準の収穫前日数を確認し、防除を適宜行いましょう。山武地域管内ではクモヘリカメムシ及び、アカスジカスミカメの発生が散見されています

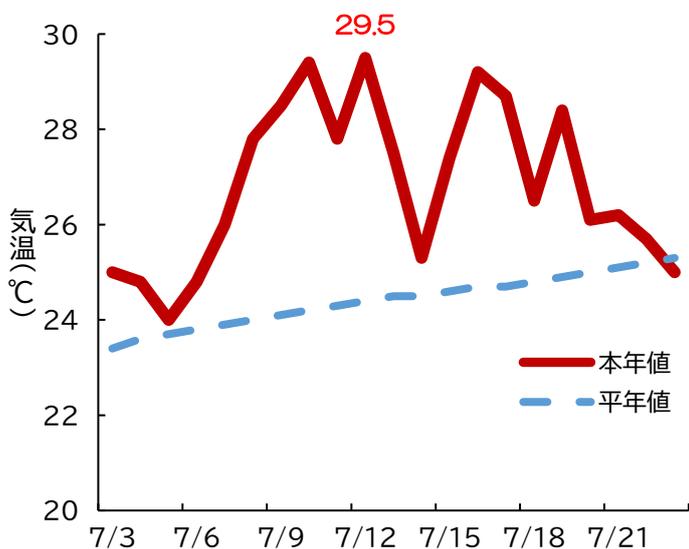


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

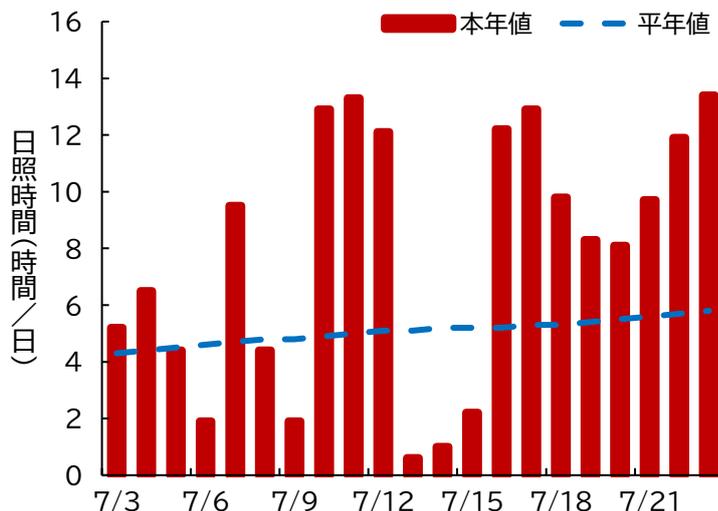


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

収穫日予測(7月20日現在)*1

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	8/11	8/16	8/25	8/23
5/1	8/16	8/21	8/30	8/30
5/15	8/24	8/29	9/7	9/7

*1 予測日は水稲生育予測システム「でるた™」を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の状態、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

*詳細は病害虫防除課のホームページをご覧ください。



病害虫発生予察情報(7月19日現在)

病害虫名	予想発生量	防除上の注意事項
いもち病	平年並み	葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。
紋枯病	やや多	穂ばらみ期に発病株率 15%以上の場合、薬剤防除する。
ごま葉枯病	平年並み	発生が多い場合は薬剤防除する
斑点米カメムシ類	平年並み ~多	ほ場の状況に合わせて薬剤防除する。
ヒメトビウンカ	多	幼穂形成期を迎えていない水田でイネ縞葉枯病が多発している場合は、薬剤防除する

これからの管理のポイント

○各品種の収穫適期の目安

収穫適期は各品種によって異なります(表 1)。ただし、登熟期間中の**気象条件や栽培管理等で変動する**ため、ほ場の状態を確認し適期に収穫を行いましょう。

○収穫適期の見極め方

収穫が早すぎると玄米の充実が不足し、青米や未熟粒が多くなり玄米外観品質が低下します。また、極端な早刈りは収量低下にもつながります。一方で、収穫が遅くなると立毛中にも胴割れが発生して、玄米外観品質が低下します。

適期に収穫を行う目安は、**帯緑色籾(緑色が残っている籾)**が全体の籾の**15%になったとき**になります。

表 1 出穂期からみた各品種の収穫適期

品種名	出穂後日数
ふさおとめ	33日
ふさこがね	37日
コシヒカリ	35~40日
アキヒカリ	35~40日
夢あおば	40日

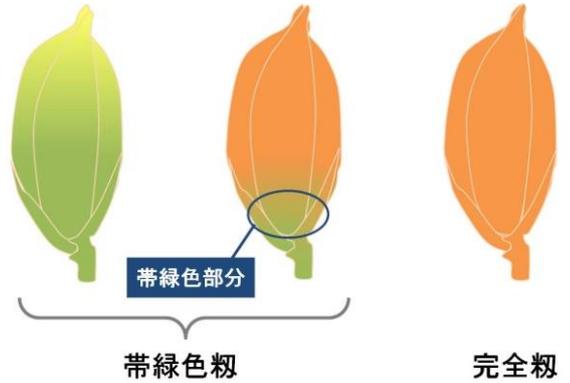


図 3 帯緑色籾と完全籾

コラム④ 堆肥の使用方法について ~化学肥料の代替として~

次年度の栽培に向けて、化学肥料削減に向けた堆肥資材の効果的な使用方法を紹介します。堆肥を化学肥料の代替として活用する場合、**代替する成分量は窒素成分3kg/10a** までとし、品種に合わせた施用量を目指しましょう。また、千葉県でも堆肥利用促進に向けた取組として「千葉県堆肥利用ネットワーク」があり、県内の

鶏ふん堆肥

堆肥資材の中で最も速効性が高いです。水稻栽培では、基肥と秋の稲わらの腐熟への使用が効果的です。また、**リン酸、カリウム含量が他の資材よりも高い**のが特長です。

牛ふん堆肥

窒素成分は少なめですが、投入量を多くして**連用することで効果を発揮する**堆肥資材です。地力の向上に適しており、ほ場の地力改善や WCS での利用に適しています。

豚ふん堆肥

窒素成分を比較的多く含んでいます。**リン酸を多く含む**資材も多く、有機質肥料に近い肥効が期待できます。



千葉県堆肥利用
ネットワークの二次元コード

表 2 家畜ふん堆肥の肥効率の目安

※ 各堆肥の成分は県内平均値

堆肥の種類	窒素含量 (%)	水分 (%)	推定窒素肥効率 (%)	施用量 (kg/10a)	推定有効成分量 (kg/10a)				
					窒素	リン酸	加里	石灰	苦土
牛ふん堆肥 (副資材入り)	0.89	55	16	1,600	3.0	14.0	15.1	19.2	8.1
牛ふん堆肥	1.47	45	21	1,000	3.0	11.8	20.5	21.3	8.4
豚ふん堆肥	3.01	30	32	480	3.0	21.1	9.7	22.9	7.2
鶏ふん堆肥	2.45	19	48	250	3.0	12.5	7.4	36.5	2.9

生育調査結果

*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*出穂時の葉色は、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
東金市 5/3 移植	本年	6/26	7/18	3.7(90%)	8/25
	前年	6/30	7/22	4.1	8/29

ふさこがね

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
山武市 5/3 移植	本年	6/28	7/17	5.0(109%)	8/23
	前年	6/24	7/14	4.7	8/20

ふさおとめ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
山武市 5/1 移植	本年	6/21	7/12	5.2(105%)	8/14
	前年	6/24	7/13	5.2	8/15

アキヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
山武市 4/25 移植	本年	6/21	7/10	4.7(94%)	8/19
	前年	6/24	7/8	4.5	8/17

夢あおば

場所・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
山武市 5/18 移植	本年	6/21	7/27	5.0(98%)	9/5
	前年	7/8	7/25	5.0	9/3

農林総合研究センター 成東育成地 による生育調査結果

*調査は全て山武市で行われています。 *本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*出穂時の葉色は、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種 移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
コシヒカリ 4/25 移植	本年	6/23	7/16	4.2(103%)	8/22
	前年	6/27	7/20	4.0	8/26
ふさこがね 4/25 移植	本年	6/20	7/12	5.4(109%)	8/16
	前年	6/19	7/10	4.5	8/14
ふさおとめ 4/25 移植	本年	6/19	7/9	5.2(110%)	8/11
	前年	6/16	7/8	4.7	8/10
粒すけ 4/25 移植	本年	6/23	7/15	4.6(103%)	8/21
	前年	6/27	7/20	4.8	8/26
粒すけ 5/15 移植	本年	7/6	7/26	4.4(98%)	9/7
	前年	7/5	7/28	4.7	9/9